

# 「コンチキチン」 ぎ お ん ば や し 祇園囃子が響かない夏



京都市消防局長 山内 博貴

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、1100年を超える歴史を持つ祇園祭の山鉾巡行が2年連続の中止になりました。祇園祭は、平安時代前期の869（貞観11）年、京の都をはじめ全国で疫病が流行したことから、平安京の広大な庭園だった神泉苑に、当時の国の数にちなんで66本の鉾を立て、祇園の神（スサノオノミコト）を迎え、神輿を送り、災厄が取り除かれるよう祈ったことが始まりとされています。8月には大文字などの五山の送り火も規模が縮小されての実施となり、京都の夏を彩る伝統行事が例年どおり開催されないことに、歴史の重みと悲しみを感じました。全国の各消防本部の皆様もそれぞれの地域の伝統行事や花火大会等が影響を受け、同じように苦慮されていると思います。

また、北九州市で予定されていた全国消防救助技術大会も中止が決定され、日々訓練に励んでいた出場隊員にとって訓練の成果を披露する場が無くなったことは、致し方ありません。訓練隊員には、「コロナ禍において厳しくつらい思いをされている多くの方の気持ちを受けとめ、消防署に戻って全力で日々の業務に取り組み、新たな気持ちでチャレンジしてほしい。」と私から伝えました。

コロナ禍において、社会全体が安心安全に対して不安を抱く世の中においても、消防の使命は普遍的であり、このような時代だからこそ、一致団結して消防力を強化し、火災・救急・救助の災害現場で、助けを求める人のもとへ、いち早く駆け付け、対応していかなければならないと再認識しました。

一方で、変わりゆく社会情勢、激甚化する自然災害など、災害対応力を強化する必要性が増すなか、消防の広域連携が求められています。京都市消防局でも、平成29年から消防学校を京都府と共同で運用を開始し、令和2年10月からは京都府内全域で救急の電話相談窓口「救急安心センターきょうと（#7119）」の運用を開始しています。また、令和3年から「京都府消防体制の整備推進計画」に基づき、府内に15ある消防本部を北部、南部の2ブロックに分け、当局は府南部の消防本部と消防指令センターの共同運用に向けて具体的な協議を進めていくことになりました。指令センターの共同運用は、より迅速な相互応援出動が可能となり、地域全体の消防力強化につながります。様々な課題はありますが、京都府の各消防本部の皆様と共に、府民及び市民の皆様の安心・安全のため、早期の運用開始に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の流行が世界中で拡大してから1年以上が経ち、ワクチン接種が本格化してきましたが、未だ感染者数は減少することなく、ウイルスとの闘いは正念場を迎えています。一刻も早く終息へ向かい、平穏な生活をとりもどして、来年こそは街中に祇園囃子の音色が響き渡る夏が戻ってくることを心から願っております。

京都市消防局公式キャラクター

